

アフリカにおける「人間の安全保障」の射程

— 研究会中間成果報告 —

望月克哉 編

2004 年 3 月

独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

はしがき

本報告書は、平成15年度に実施された「アフリカにおける「人間の安全保障」の射程」研究会の成果の一部である。この研究会は、「人間の安全保障」概念の適用可能性をさぐることを目的に、2年の研究期間を設定して開始された。「人間の安全保障」が多様な分野・領域を対象とする包括性をもった概念であることを念頭におき、検証作業や事例分析を進めるなかでは、主にアフリカ地域を対象に据えることを企図している。初年度の研究会では、まず国連人間の安全保障委員会が取り上げている諸課題のうち紛争に関わる部分からアプローチすることにした。

近年、「人間の安全保障」概念がさまざまな展開をみせているなかで、紛争と貧困という大きな2つの切り口うち、前者から切り込もうとする理由は2つある。ひとつには安全保障論の系譜において「人間の安全保障」概念を位置づけようとするとき、国家とその安全保障をめぐる問題を抜きにすることはできず、これを視野に入れた議論には紛争問題こそが最もふさわしい領域と考えたからである。いまひとつの理由は、「人間の安全保障」の実現のためには相互に関連する多数の問題を扱わねばならず、それらを仕分けるためには、便宜的なものとはいえないながらも紛争下、紛争後、あるいは紛争予防といった局面に分けて検討することが有効と考えるからである。とは言え、こうした紛争問題からのアプローチにしても貧困問題とのインターフェイスを見逃してはならないのは当然のことである。

研究会として「人間の安全保障」概念と相互に関連する分野・問題群のうち、いずれをカバーするかは、どこまでもメンバーの関心にかかっており、限られた人数でそれらを包括しようとは考えない。むしろ、この概念の展開を見通す上で必要不可欠なトピックを見落とさぬ配慮が必要なのであり、本報告書における平和構築（活動）と予防外交はこうした観点から取り上げられたものである。また、概念適用について、時にその是非が問われるようなトピックを取り上げることも、「人間の安全保障」論の展開にとっては大いに意味のある作業と言えよう。本報告書で取り上げている人道的介入、そして難民問題は、それぞれに変化を遂げてきた中で「人間の安全保障」概念とのインターフェイスをもつに至ったものである。最後に、より人間に近いレベルでの概念適用の可否を考える意味で、本報告書では地域社会（コミュニティ）における住民対立、そして住民生活の安全（保

障)という問題を取り上げている。これらは、すぐれてアフリカ社会への適用に関わるものと言える。以下では、上述のトピックを取り上げた各章の概要を紹介しておくことにする。

第1章、篠田論文は国際平和活動の観点から、「人間の安全保障」がもつ意義を明らかにするとともに、それが平和構築活動とどのように結びついているのかを考察している。この概念が必ずしも国家安全保障と矛盾しないとした上で、その包括性こそが国際社会が行動に出ることを肯定する一方、各主権国家がその役割を担うことの限界を指摘する。平和構築活動は人間の安全保障の一分野であるが、両者の優先度が必ずしも一致するわけではないことから、両者が常に一致するとは仮定できないと結論する。こうした齟齬の問題をルワンダ難民の事例に即して論じたのち、相互調整に向けた方向性を示している。

第2章、平井論文は、まず国連を中心に提起されてきた予防外交と「人間の安全保障」について、理念の上で両者を介在している「民衆の安全保障（ピープルズ・セキュリティ：people's security または peoples' security）」が提起する諸問題の検討から、両者が同様の時代背景の中で生まれ、共通の基盤をもつものであると主張する。その上で、それぞれがもつ二面性についても指摘しつつ、両者のインターフェイスの必要性を開発援助に関して具体的に考察している。これらの考察から、開発援助に「人間の安全保障」概念を援用することで、冷戦終結後に急増している国内紛争における予防外交の展開にもつながると提言している。

第3章、滝澤論文は「人間の安全保障」実現の手段として人道的介入を含めるか否か、その是非をめぐる問題を中心に据えて、双方の立場を検討するとともに、これを必要とする内的に脆弱な国家への対応について問題提起を試みている。まず人道的介入を是とする立場の代表例としてカナダ政府の政策を紹介し、その論理と方法、とくに「対応する責任」を前面に掲げた武力行使を含めた人道的介入の要件を検討する。次に、人道的介入を含めることに対して否定的な見解において、いかなる論点が提示されているかを紹介する。その上で、双方の立場に共通する正当性の問題に言及し、そこから是非論を再整理したのち、平和構築や紛争予防との連続性を指摘している。

第4章、武内論文は難民問題を「人間の安全保障」の視角から再整理するとともに、ルワンダを中心とするアフリカ大湖地域の難民問題について検討すること

をめざしている。両者が多義的な概念であることを前提として、まず国際社会の変動を背景とした難民問題の変質を論じ、さらに「安全保障」概念の変化と拡散のなかで生まれた「人間の安全保障」概念の代表的議論における難民問題の位置づけをみる。とくに両者の齟齬に注目した議論が紹介されている。さらに大湖地域の難民問題を概観し、ルワンダ難民の事例から、これをめぐる人道的問題、難民の政治化と長期化、さらに難民帰還といった諸問題を論じたのち、それらと「人間の安全保障」の関わりについて考察を加えている。

第5章、望月論文はナイジェリアの地域社会レベルでの住民対立を事例として、地域住民の置かれている不安全状況と、それに対する「人間の安全保障」確保の限界について考察している。同国南西部の都市で発生している紛争の歴史的経緯をたどることから、そこでの争点が時代とともに推移し、それにつれて伝統的な仲介・調停メカニズムが働かなくなっていることを指摘する。紛争を沈静化し、解明から和解に導くための制度が機能不全に陥っている現状から、「人間の安全保障」概念援用の方向性を示唆している。

第6章、石原論文はエチオピア政府の主導により再発動された集団移住計画を出発点として、その背景にある「国家単位での食糧安全保障」から「世帯単位での食糧安全保障」への政策転換が実態を伴っていないことを、同国南西部のコーヒー栽培農村におけるフィールドワークの結果から論証している。土地利用や農業をはじめとする農村住民の実態把握の困難さ故に、これを踏まえていない「食糧安全保障」を名目とする諸政策が、「人間」中心という国際社会のトレンドに流されていることを指摘し、本来の理念としての「人間の安全保障」に沿って進めてゆくための方途を探ることを主張している。

本研究会の運営にあたっては多くの方々の御助力をいただいている。とりわけヒアリング講師として御講演をいただいた勝俣誠（明治学院大学）、饗場和彦（徳島大学）の両氏、オブザーバーとして議論に加わっていただいた平野克己、高根務、津田みわ、児玉由佳、吉田栄一、佐藤章、福西隆弘、青木まき、初鹿野直美、原島梓の各氏、さらに毎回手弁当で参加された井上実佳氏には、この場を借りてお礼を申し上げたい。

主査

目次

目次

執筆者紹介

はしがき

第1章 人間の安全保障から見た平和構築活動の意義

—アフリカの文脈での検討への導入として— 篠田英朗 . .

はじめに

第1節 人間の安全保障論の意義

第2節 人間の安全保障と平和構築

第3節 ルワンダ難民の場合

第4節 人間の安全保障と平和構築の相互調整に向けて

参考文献

第2章 人間の安全保障概念への問題提起

—予防外交と民衆の安全保障の視点から— 平井照水 . .

はじめに

第1節 冷戦終結後における新たなアプローチの模索

第2節 『人間開発報告書 1994』の問題提起

第3節 民衆の安全保障からの問題提起

第4節 予防外交と人間の安全保障

第5節 予防外交と人間の安全保障とのインターフェイス

第6節 予防外交と人間の安全保障をめぐる二つの立場

おわりに

参考文献

第3章 「人間の安全保障」と人道的介入

—脆弱な国家における人間の安全— 滝澤美佐子 . .

はじめに

第1節 カナダ政府の「人間の安全保障」政策と人道的介入

第2節 カナダ政府の政策の分析

第3節 人道的介入の問題点—「人間の安全保障」論からの危惧

第4節 脆弱な国家の人間の安全と人道的介入
参考文献

**第4章 アフリカ大湖地域における難民問題の位相と
「人間の安全保障」・・・・・・・・・・武内進一・・**

はじめに
第1節 難民問題の変質
第2節 「人間の安全保障」と難民問題
第3節 大湖地域の政治変動と難民
第4節 ルワンダ難民問題の位相
むすびにかえて
参考文献

第5章 ナイジェリアにおける住民対立と「人間の安全保障」・・・・望月克哉・・

はじめに
第1節 グループ／コミュニティ関係の歴史的展開
第2節 イフェ＝モダケケ紛争の起源
第3節 紛争の政治化
第4節 紛争調停努力とその主体
第5節 「人間の安全保障」の限界
おわりに
参考文献

**第6章 エチオピアにおける食糧安全保障政策
一人間中心アプローチに向けた諸課題・・・・・・・・石原美奈子・・**

第1節 エチオピアにおける食糧安全保障政策の展開
第2節 エチオピア南西部における「豊かな」コーヒー栽培農村の幻像
第3節 人間中心の「食糧安全保障」に向けて
参考文献

執筆者紹介

はしがき・第5章

望月 克哉（もちづき・かつや）・・・・・・・・・・アジア経済研究所新領域研究センター
国際関係・紛争研究グループ長

第1章

篠田 英朗（しのだ・ひであき）・・・・・・・・・・広島大学平和科学研究センター助手

第2章

平井 照水（ひらい・てるみ）・・・・・・・・・・総合研究開発機構国際研究交流部
主任研究員

第3章

滝澤 美佐子（たきざわ・みさこ）・・・・・・・・・・中部大学国際関係学部助教授

第4章

武内 進一（たけうち・しんいち）・・・・・・・・・・アジア経済研究所新領域研究センター
国際関係・紛争研究グループ長代理

第6章

石原 美奈子（いしはら・みなこ）・・・・・・・・・・南山大学人文学部講師